

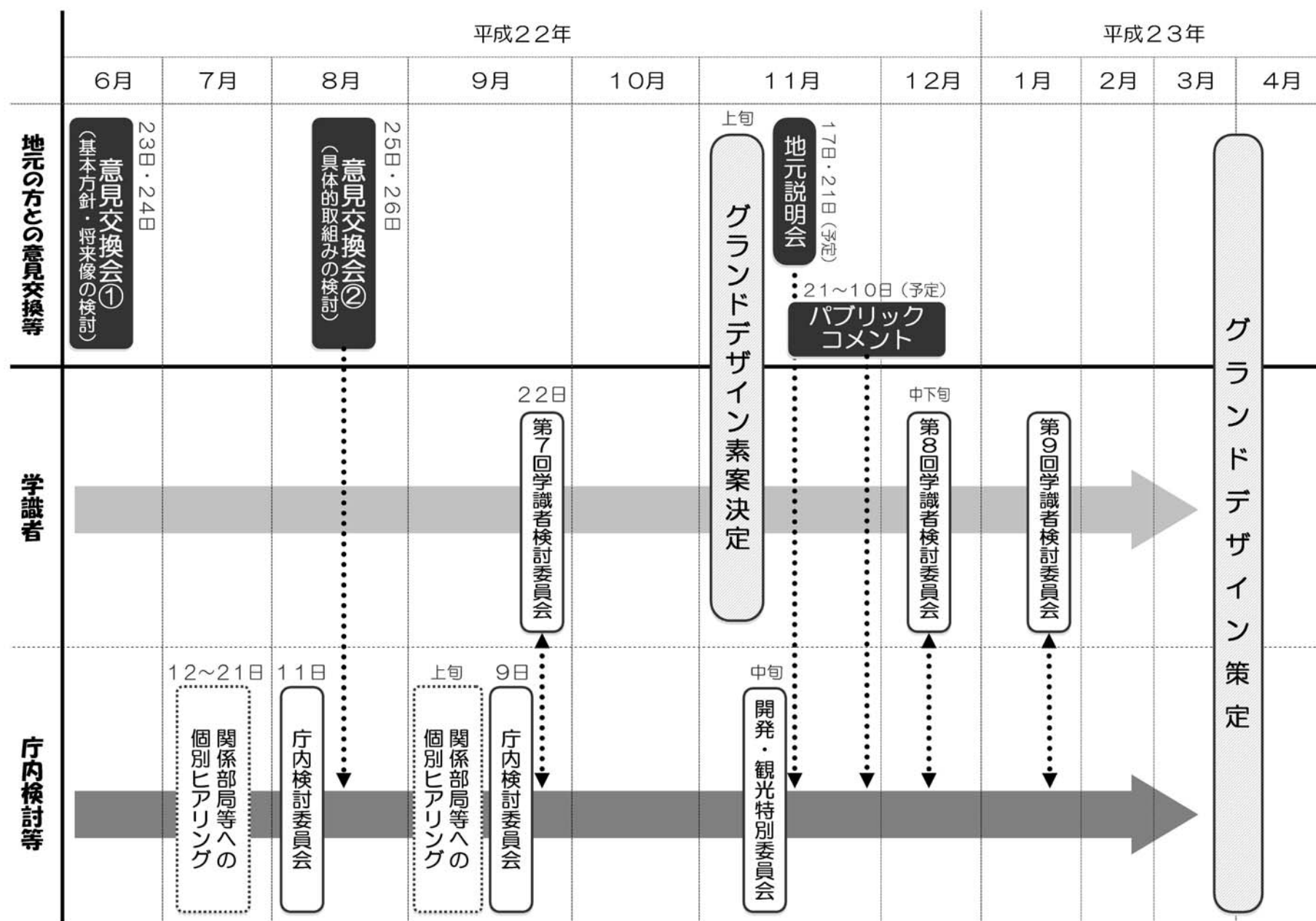
大森駅周辺地区グランドデザイン策定 検討資料

目 次

- ①大森駅周辺地区グランドデザイン策定までのスケジュール …… 1
- ②グランドデザインエリアの検討（案） …… 2
- ③アクションプラン（具体的取組み）の検討 …… 3

大田区

①大森駅周辺地区グランドデザイン策定までのスケジュール



② グランドデザインエリアの検討（案）



③アクションプラン（具体的取組み）の検討

●：優先的取組み案

・早期に実践化、成果を見せていくことによる波及効果の大きなもの
・効果が大きい、検討に時間を要するもの



『いきいき・活動エリア』におけるアクションプランの内容（案）

記号の意味	●：優先的取組み案 ⇒：区・その他機関等の施策や事業例
-------	--------------------------------

①大森の魅力の顕在化・発信

①-1 大森の魅力発信

ご当地ブランドや地域資源を発掘、再認識し、観光ルートの設定やさまざまな情報媒体、地域の活動（大森貝塚保存会の活動など）を通じて、区内外に魅力発信を行う。また、品川区との広域連携による魅力の発信も行う。

⇒おおたの観光魅力創出事業、大田区観光振興プラン

①-2 インフォメーション機能の活用と充実 ●

現在のインフォメーション機能（案内看板、地図、情報発信など）を活用しながら、案内サインの強化、情報発信の充実を図り、来訪者にもわかりやすい情報提供を行う。

⇒大田区観光振興プラン、大田区サイン基本計画

①-3 観光ガイドの育成・充実

地域資源や魅力の語り部として、観光サポーターやボランティアガイドを育成し、大森の魅力を広め、継承を行う。

⇒観光まちづくりガイド養成事業

②気軽に出かけられるまち

②-1 自転車環境の整備・拡充 ●

自転車で訪れやすく、安全で利便性の高いまちを実現するため、自転車駐車場の整備や、自転車走行レーンの設置を進める。

⇒自転車対策事業

②-2 自転車マナーの向上

歩行者が安心して快適に歩けるよう、地元関係者や事業者等がそれぞれの役割で対応し、放置自転車の撤去やマナー向上の呼びかけを行い、放置自転車のないまちを目指す。

②-3 ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進

住民・事業者・区が連携し、誰もが利用しやすいまちとなるよう、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮し、施設の整備を進める。また、街中で困っている人への声かけ等、安心・安全な社会づくりに貢献できる豊かな心を育み、「心のバリアフリー」を浸透させる。

⇒ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針、バリアフリー基本構想、区民との連携による公共施設のバリアフリー化の推進、心のバリアフリー教育

②-4 どこにでもアクセスしやすい交通体系の確立

気軽に訪れるための主要交通手段や公共施設、公園など、さまざまな場所に訪れることができるよう、『空想図景部グランドビジョン2030』と連携しながら、便利な交通機関（シャトルバスや巡回バスなど）の導入検討を行う。

③居心地よく生活できる安心なまち

③-1 地域マナーの向上

地域が主体となって、歩きたばこや空き缶等のポイ捨て、犬のふんの放置などの地域マナー向上に向けた呼びかけや見回り等を実施し、居心地のよいまちを目指す。

③-2 居心地の良い市街地の形成

誰にでも居心地が良く、きれいなまちと感じられるよう、まちのルールや地区計画等を活用しながら、看板、建物、みどり等の景観づくりや美化が行き届いた市街地を形成する。

⇒条例、地区計画等、(仮称)大田区みどりの基本計画、ごみ減量・3R推進

③-3 防災・防犯活動の推進

町会や自治会、商店街、企業等が協力し、防災・防犯活動を実施し、防災・防犯意識を浸透させるとともに、安全・安心なまちを目指す。

⇒地域活性化事業への助成、地域安全・安心パトロール活動団体の連携・支援、地域防犯活動の支援、地域防災活動の支援

③-4 災害・犯罪に強い市街地の形成

建物の耐震化や建替え、建物の共同化等を推進し、災害に強い市街地形成を目指すとともに、街路灯の整備や防犯カメラの設置など、防犯力のある住宅地を目指す。

⇒耐震改修促進計画、耐震診断・改修助成

③-5 エコロジーに配慮した市街地形成

打ち水の実施や省エネ設備の導入、建築物の建替えに伴うエネルギー効率の向上と環境負荷の低減を図り、地球環境に配慮した低炭素社会の実現を目指す。

⇒おおたエコプラン、打ち水で地球温暖化対策、住宅用省エネルギー設備設置補助

④くらしを支えるいきいきとした商店街

④-1 商店街の振興 ●

商店街や事業者、地域団体、中小企業診断士等と協力・連携（地域連携のプラットフォームづくり）し、多様なニーズに対応するサービスを充実させながら、地域に情報発信し、商店街振興を目指す。

⇒商店街再生支援事業、商店街景観整備事業、新・元気をだせ 商店街事業、全国商店街支援センターの事業

④-2 個店の経営向上・人材育成

経営向上や人材育成などの制度を活用し、個別店舗の経営を向上させるとともに、起業家等の活発な活動を目指す。

⇒(財)大田区産業振興協会の事業、モノづくり事業・技術継承支援事業

④-3 空き店舗の活用促進

空き店舗の活用をすすめる、商店街活性化を図る。

⇒新・元気をだせ 商店街事業

⑤活発な地域活動による地域力アップ

⑤-1 地域特有のまつり・イベントの実施

伝統的なお祭り、商店街や神社のイベントなど、地域の伝統を継承しながら、あたらしい取組みの企画、実施を行い、にぎわいのあるまちをつくる。

⇒(素案)地域文化振興プラン

⑤-2 地域活動団体の育成と地域活動の活発化

地域活動を促進しようとする団体や、区民活動団体、企業、学校、行政等の活発な活動・連携・協働ができるよう、活動拠点を創出し、知識や技術を習得できる講座等の実施により育成を図る。また、大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化を促進するため、助成金の交付等により区もサポートする。

⇒地域力応援基金助成事業、NPO・区民活動フォーラムの開催

⑥大森駅周辺の都市基盤の形成と機能強化

⑥-1 東口駅前広場の整備・機能強化 ●

車両と歩行者動線の分離をするなど、交通安全性を高めるため、駅前広場の整備や機能強化を行う。

⑥-2 東西自由通路の利便性向上 ●

既存の東西連絡通路の改善を進めていくとともに、関係機関との協議を行い、利便性の高い自由通路の確保を図る。

⑥-3 西口駅前広場周辺の整備 ●

安全で機能性が高い、ゆとりを感じる駅前広場を目指し、周辺の低層住宅地の住環境に配慮しながら、都市基盤の整備（池上通り（補助28号線）の拡幅等）と連携して、複合的土地利用と土地の高度利用を図るために、再開発を進める。

⑥-4 道路ネットワークの形成

地域の道路ネットワークを強化するため、西口駅前広場の整備と連動しながら、補助33号線の整備や新井道（大森駅南のガード下部分）の交通環境の改善や歩行空間の安全確保の検討を行う。

⇒都市計画道路の整備

優先的取組み案

優先的取組み案	優先度	期待できる効果
①-2 インフォメーション機能の活用と充実	早期に実践化、波及効果大きい	早期に実践の可能性があり、大森の魅力浸透の波及効果が大きい。
②-1 自転車環境の整備・拡充	効果が大きい、検討・手順に時間を要する	自転車駐車場の確保や安全な自転車走行環境の確保は喫緊の課題であり、検討、実践に時間を要するものの、課題解決による効果は高く、成果の実感が分かりやすい。
④-1 商店街の振興	効果が大きい、検討・手順に時間を要する	まちの顔とも言える商店街の活性化は、地域の活力向上の波及効果が大きく、地域振興に大きく寄与する。
⑥-1 東口駅前広場の整備・機能強化	比較的、検討が容易で、整備の波及効果が大きい	駅前広場の再整備を実施することにより、利便性が高く、円滑な交通と安全性の高い歩行空間が確保され、大きな効果を得るとともに、話題性や注目度の高い事業となる。
⑥-2 東西自由通路の利便性向上	効果が大きい、検討・手順に時間を要する	駅東西の行き来を容易にする東西自由通路の確保は、大きな効果が得られるものの、鉄道事業者、駅ビル等の関係機関との調整に時間を有する。
⑥-3 西口駅前広場周辺の整備	効果が大きい、検討・手順に時間を要する	西口駅前広場の安全性、利便性等を改善する整備を行うことは、効果が非常に大きい、検討、実施に多くの時間を有する。

『台地エリア』におけるアクションプランの内容（案）

記号の意味

●：優先的取組み案
⇒：区・その他機関等の施策や事業例

⑦地域活動団体と連携した歴史・文化・まちづくりの継承

⑦-1 地域活動団体への活動サポート

大森の歴史や文化、まちづくりを伝える地域活動団体へのサポートを行い、団体活動の活発化や歴史・文化・まちづくりの継承、発信を推進する。

⇒NPO・区民活動フォーラムの開催

⑦-2 歴史・文化の継承

地域活動団体が主体となった、歴史・文化サポーター、ボランティアガイドの養成を行うとともに、歴史・文化の教育を通じて、大森の歴史・文化の発信と継承を行う。

⇒品川・大田地域観光まちづくり推進協議会の活動、
地域活動団体によるガイド養成

⑧地域資源の魅力ベースアップと情報発信

⑧-1 大森の魅力の再発見

大森の持っている魅力的な資源の価値を再発見する取組み（写真展、史跡めぐり等）を行い、あらたな大森の魅力の発掘を行う。

⇒おおたの観光魅力創出事業、大田区観光振興プラン

⑧-2 地域資源を活かした魅力ある散策路の整備

馬込文士村など、地域資源の活用やお休み処の設置などにより、楽しく歩け、魅力の発見ができる散策ルートを目指す。

⇒品川・大田地域観光まちづくり推進協議会の活動

⑧-3 魅力の発信（マップやガイドなど）

歴史・文化を紹介し、気軽に散策できるよう、さまざまな情報媒体を活用し、区内外へ魅力を発信する。

⇒品川・大田地域観光まちづくり推進協議会の活動、
大田区サイン基本計画

⑨ほこりの持てる美しく快適な住宅地の育成

⑨-1 住み続けたい住宅地の維持・発展 ●

まちのルールや地区計画等を活用しながら、将来に渡り、住み続けたい、誇りの持てる住宅地の維持、発展を目指す。

⇒条例、地区計画等

⑨-2 緑の保全と充実

今ある住宅地の緑（庭木等）を保全しながら、緑や花を充実させ、緑豊かな品格のある住宅地を目指す。

⇒(仮称)大田区みどりの基本計画

⑨-3 地域美化活動

町会・自治会により清掃活動を行うとともに、花植えやプランターの設置など、地域美化に取組み、いつまでも、きれいで魅力的な街並みを形成する。

⇒ごみ減量・3R推進

⑨-4 環境と共生した住宅地の形成

太陽光エネルギーや省エネ設備等を積極的に取り入れ、地球環境に配慮した低炭素社会の実現を目指す。

⇒おおたエコプラン、住宅用省エネルギー設備設置補助

⑩身近で便利な商店街の形成

⑩-1 住宅地と調和した元気な商店街づくり

各商店や地域団体、中小企業診断士等と協力・連携し、商業活動を高めながら、住宅地の身近な商店街として、商業振興を図る。

⇒商店街再生支援事業、商店街景観整備事業、新・元気を出せ商店街事業、全国商店街支援センターの事業

⑩-2 訪れやすい安全な商店街の形成

誰もが買い物にしやすいよう、自転車駐車場の確保を図るとともに、通行しやすい安全な歩行者空間の創出・維持を行う。

⇒自転車対策事業

⑪誰もが暮らしやすいまち

⑪-1 地域マナーの向上

ゴミだしや駐車、駐輪、私物の管理等、1人ひとりが地域のマナーを学び、マナーを遵守し、気持ちよく暮らせるまちを維持する。

⑪-2 ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進

街中で困っている人への声かけなど、安心・安全な社会づくりに貢献できる豊かな心を育み、「心のバリアフリー」を浸透させる。また、誰もが暮らしやすいまちとなるよう、ユニバーサルデザインやバリアフリーの取組みを進める。

⇒ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針、バリアフリー基本構想、区民との連携による公共施設のバリアフリー化の推進、心のバリアフリー教育

⑪-3 利便性の高い交通機関の検討

起伏に富んだ地形でありながらも、高齢者や身障者にとって住みやすい住宅地に向けて、利便性の高い交通機関の検討を行う。

⑫地域が主体となった安心・安全なまち

⑫-1 地域防災・防犯活動の充実 ●

町会や自治会、地域活動団体等をはじめ、各家庭が協力し、防犯・防災活動（火の用心や防災訓練、民間交番等）を実施し、防災・防犯意識を浸透させながら、安全・安心なまちを目指す。

⇒地域活性化事業への助成、地域安全・安心パトロール活動団体の連携・支援、地域防犯活動の支援、地域防災活動の支援

⑫-2 地域の見守り体制の構築

信頼と安心によって結ばれたコミュニティを形成し、地域で、子供や高齢者等を見守り、安心できる住宅地を実現する。

⑫-3 災害・犯罪に強い住宅地の形成

建物の耐震化の促進、狭あい道路の整備、建物の共同化等の推進、災害に強い安心な住宅地を目指すとともに、街路灯の整備や防犯カメラの設置など、防犯力のある住宅地を目指す。

⇒耐震改修促進計画、耐震診断・改修助成

⑫-4 地域活動の促進支援

地域活動を促進しようとする団体や、区民活動団体、企業、学校、行政等との連携・協働の推進に向けた活動には、区が助成金を交付し、大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化を促進する。

⇒地域力応援基金助成事業、NPO・区民活動フォーラムの開催

優先的取組み案

優先的取組み案	優先度	期待できる効果
⑨-1 住み続けたい住宅地の維持・発展	早期に実践化、波及効果が大	まちづくりのルールを定め、運用していくことにより、良好な住宅地の形成を図るため、検討、実施に時間を要するが、住み続けたい住宅地を将来に残すために、非常に効果が大
⑫-1 地域防災・防犯活動の充実	早期に実践化、波及効果が大	地域の防災・防犯は、地域住民による自主的な活動が効果的であり、成果を見せていくことで、防災・防犯意識を高めることが期待できることから、意識向上への波及効果が大

【参考事例】

①-2 インフォメーション機能の活用と充実のイメージ例



破損や老朽化した資源や案内サイン等の補修や案内内容の充実、積極的なまちの情報発信など、インフォメーション機能を強化する。

←破損している案内表示

③-2 居心地の良い市街地の形成に関わる例

京急蒲田駅西口地区地区計画



景観と調和のとれた街並みを誘導しつつ、道路と一体となった安全で快適な歩行者空間の形成を図り、地域の回遊性、防災性の向上を目指す。

また、土地の有効かつ高度な利用を図るとともに地域の緑化にも配慮し、魅力ある商業、業務機能と快適で利便性の高い都市居住機能を備えた複合市街地の形成を目指す。

④-1 商店街の振興に関わる事例（千代田区：ちよだプラットフォームスクエア）



まちづくりの拠点施設であり、事業者や企業家が使いたいやすい会議室等の提供を行っており、周辺地域の活性化も意図しながら、ベンチャービジネスやコミュニティビジネスへの発展を支援している。

⑧-2 地域資源を活かした魅力ある散策路の整備に関わる事例

（お休み処：品川宿交流館本宿お休み処）



『東海道五十三次』の中で一番目の宿に当たる品川宿をPRするために、品川区が設立した4階建ての総合案内所。

旧道沿いは当時のままの道幅を保つ商店街など歴史資源が数多く残っており、今後来街者の増加をめざす。運営は「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」が行っている。

⑫-1 地域防災・防犯活動の充実に関わる事例



「大森中、蒲田、糀谷地区防災まちづくりの会」は、この地区に関係する町会、自治会やPTAの代表、一般公募の住民から構成され、この地区の防災まちづくりを推進することを目的に活動している会である。

「自分たちのまちづくりは、自分たちの手で」という考えを基本に、会員の皆さんが定期的に集まり、地区内の防災まちづくりの進め方について話し合ったり、「防災まちづくりニュース」の発行、イベントの開催などを通じて、地区の住民に防災まちづくりの大切さを伝えている。